

C 177

嫌気処理茶(ギャバロン茶)のSHR 血圧上昇抑制作用における γ -アミノ酪酸の役割 大妻女大家政:大森 正司・岡本順子, 目白短大:矢野とし子, 食統研:津志田藤二郎, 農環研:村井敏信, 国立栄研:樋口満, 野茶試:岩浅 契・袴田勝弘・中田典男

<目的>

先に本研究では、嫌気処理して得た茶(ギャバロン茶・ギャバロン紅茶・ギャバロンウロン茶)がSHR ラットに対して血圧降下作用を示すこと、又、ギャバロン茶が臨時的にも血圧降下作用のあることを認め報告してきた。今回はギャバロン茶の血圧降下作用に関係すると考えられる成分である γ -アミノ酪酸(GABA)の量的把握について明らかにするため、実験を行い、知見を得たので報告する。

<方法> 1. 農水省野菜茶業試験場で製造したギャバロン茶および普通緑茶の50gを1000mlのイオン交換水の熱湯で1分間浸出し、浸出液を得た。浸出液1lにGABAを50mg~1gまで濃度勾配させ、加え、試料液とした。8週令オスSHR(170~200g)を1群10匹として①対照区①:イオン交換水投与区, ②対照区②:普通緑茶投与区, ③試験区①:GABA 50mg~1g投与区, ④試験区②:普通緑茶+GABA 50mg~1g投与区とした。飼料は日本クレー製固形飼料CE-2を用いて飼育した。2. GABAを経口投与したラットを剖腹し、血液をはじめ、各臓器における遊離アミノ酸を測定した。

<結果> ① GABAを単独で投与した場合には、1% GABA溶液を3週間投与し、10~15 mmHgの血圧降下を認めることができた。② 緑茶浸出液に200mg% GABAを加え、投与すると、3週間で約30mmHgの血圧降下が認められた。③ 各臓器中の遊離アミノ酸量を測定したところ、ギャバロン茶を投与することにより、血清、肝臓、脳においてグリスチンの増加が認められた。